

一般社団法人
日本子育て支援協会
講師

岩本久実子氏



お子さまウェルカムの
姿勢がパパママを救う

今の子育て世代の現状として、子連れでひとたび外へ出れば迷惑と思われていないか周りの目が気になる。電車やバスに乗るにもバリアフリーの場所はまだまだ少ない。挙句には車内で子どもが泣けば白い目で見られる。などと子連れというだけでハードルが上がり肩身の狭い思いをしています。

海外で子育てをしていたママが帰国後に口を揃えて言うのが「日本は子連れにやさしくない・・・」という言葉です。結婚式においても子どもと一緒に参列していいのかと迷った挙句に預け先もなく参列自体を諦めた・・・という残念

子連れで参列されるパパママの気持ち

な声が。また子連れで参列したところ式場側や新郎新婦からの配慮が全くなく落胆したという声もありました。

そこでパパママに子連れで結婚式へ参列したいと思うか調査を行ったところ、“思う” “思わない”の答えはほぼ半々に。“思わない”理由の多くは「子どもが騒ぐと迷惑がかかる」「過剰に気を使ってしまう」という声が大半を占めていました。

一方、子連れで行った際の理由調査によると、「家族ぐるみでお付き合いをしているから」という積極的子連れ層の存在と、「子どもの預け先がなかったから」という消極的子連れ層の存在が見えてきました。(ミキハウス子育て総研(株)「子連れでの結婚式参列に関するアンケート」より)

婚姻出産年齢が多様化している昨今、新郎新婦友人の中で数名は子育て中のママが存在しており、結婚式場では安心して子連れで参列できる環

境作りが求められています。そして子連れ参列者の満足感を高めることでそれが口コミとなり、パパママ・キッズ婚の潜在層を動かす導火線になるとも考えられています。

ここで招待の段階で子連れ参列者の満足度を上げるポイントを2つご紹介しましょう。

①招待状内でのお子さまウェルカムアピールを！

招待状の中にお子さまへ向けたウェルカムカードを同封する。館内に授乳室やオムツ替えコーナー等どのような設備やグッズが揃っているのかご案内カードに記載し同封する。これだけでパパママは子連れで行くことに不安や迷いがなくなり、子連れでの参列自体が前向きで楽しみなものとなります。

②招待するお子さまのことをとことんリサーチ！

アレルギー有無の確認が当たり前になされているように、「おむつははずれているのか?」「離乳食は食べているのか?」「好きなキャラクターは?」など、新郎新婦を介してどんどんリサーチしましょう。知るからこそできる対応があり、それがおもてなしとなります。

参列前から子連れによる不

安を楽しみへと変え、参列当日はその気持ちに精一杯応えることが子連れ参列者の満足度アップとなります。またそれが参列者からの新郎新婦への評価へとつながり、最終的には新郎新婦からの結婚式場側への満足度にもつながるのではないのでしょうか。

子連れ参列者へ真摯に向き合い対応することは、巡り巡って式場側の大きな強みにもなるのです。

Q. 今後、子連れで結婚式に参列してみたいと思いますか?



Q. 一緒に連れて行った理由は? (複数選択可)



Weekly ゴーゴーリサーチ(特別編)「子連れでの結婚式参列に関するアンケート」(2014年7月)より

連載

④

毎月11日号